

別冊

# おいしだものがたり

～資料館資料編～

## 茂吉先生の絵と伝円山応挙筆『鶏頭図』について ～「齋藤茂吉と歌集『白き山』『ともしび』『寒雲』」展にあたって～

私の家に、円山応挙が中国の元代の画家舜銭挙の絵を模写したという『鶏頭図』があります。茂吉先生は、昭和22年9月10日にこの軸を見にきており、40～50分間じっくりと鑑賞していきました。さらに同月20日にも再訪し、やはり身動きもせず20分間ほど見ていたということです。祖母が「先生、この軸がお気に入りでしたら、おあげしてもええぞえっす。」と言ったら「いやこれはどうも、これは実によいものだっす。大切に長く保存してけらっしゃいっす。ほくはこれで十分勉強したからなっす。」と辞退したというエピソードが残っています。(板垣家子夫著『齋藤茂吉随行記』より)



茂吉先生がこの『鶏頭図』をどのように知ったのかはわかりません。この軸を入れている桐箱は少し傷んでいるし、いわゆる「鑑定書」も付いていないので本物かどうかはわかりません。もっとも、たとえ鑑定書がついていても真贋のほどは定かではない、というのがこの世界です。さらに悪いことには、応挙はとりわけ贋作が多い絵師としても有名です。

茂吉先生は子どものころから絵がうまかったといわれていますが、本格的な絵を描き始めたのは戦後、郷里の金瓶や大石田在住時のことでした。日本画家で茂吉先生の歌の弟子でもある加藤陶陵画伯の勧めと指導のもとで、めきめきと上達していったといえます。

茂吉先生は主に草花や野菜を描きました。その中でもとりわけ多いのが牡丹の絵で、10点ほどが確認されています。個人的にはこの応挙の『鶏頭図』と茂吉先生が描いた牡丹の絵は、どこか似ているかなと思ったりしています。何事も本格的にやり始めてこそ、良し悪しが理解できるといいます。短歌で自身が辿りついた写生の極致「実相観入」を、絵画制作で試みた茂吉先生が熱心に鑑賞し、自らの作品に取り入れたと考えると、もしかしたら、この『鶏頭図』は本当に良い絵なのかも知れません。

みなさんはどう感じるでしょう。今回の展示に合わせて聴禽書屋の床の間に掛けてありますので、是非ご覧になってみてください。そして展示室の茂吉先生の2点の牡丹の絵と見比べてみるのも面白いかと思います。さらに聴禽書屋では、加藤陶陵画伯の「竹樋に雀とあかまんま」を描いた地袋のふすま絵もご覧になれます。庭一面のスギゴケの緑もあざやかです。さわやかな秋のひと時、大石田時代の茂吉先生を追体験してみたいかがでしょうか。

大石田町立歴史民俗資料館 館長 佐藤 里美

「開館40周年記念企画展 齋藤茂吉と歌集『白き山』『ともしび』『寒雲』」は11/25(日)まで



### 楽がき帳

町芸術祭の一環として開催する演劇公演で、1か月後に迫ったプロジェクト「虹」第1回公演は、昨年9月に県民芸術祭開幕記念公演として上演した「虹を呼ぶひと」のリニューアル再演です。昨年を引き続き私も参加させていただいたのですが、今年も去年以上に運動不足な中、かすぎを振り回したり飛び跳ねたりといった去年のような動きが出来るのか、とても不安です。それ以前にセリフが全然入っていません。まずはしっかりセリフを覚えて、動ける体にして、去年以上に飛び跳ねようと思っていますので、どうぞ皆さん観に来てください。(あ)

### 町の人口 平成30年10月1日現在

世帯数	2,352戸	(+3)
総人口	7,158人	(+5)
男	3,505人	(+1)
女	3,653人	(+4)
(9月中の異動)		
出生	1人	転入 19人
死亡	7人	転出 8人

※この人数は外国人も含めたものです。